平成29年度
カリキュラム・マネジメント調査研究における成果と課題
【鹿児島県】

平成３０年５月9日（水）
鹿児島県教育庁義務教育課義務教育係

1　鹿児島県の教育の現状

南北600キロの教育

● 学級規模別にみた県下の学校

平成29年５月１日現在

学級数	１から２	３～５	６～11	12～18	19～30	31～42	43学級以上	計
小学校	10	203	168	68	50	11	1	511
中学校	29	78	63	32	17	0	0	219
義務教育学校	0	0	2	0	0	0	0	219

県内小・中学校等の約3割が離島
県内小学校等の約45%に複式学級

1　鹿児島県の教育の現状

土曜授業の実施

- 土曜授業を含めた教育課程全体の見直しにより，各学校の教育課題の解決に努める。
- 主体的に考え，判断し，活用できる力の育成を目指した工夫ある授業改善に努める。
- 授業は土曜日の半日単位で，月１回程度（原則第2土曜日）とし，教育課程に位置付ける。
- 43全市町村で実施している。

2　調査研究の概要

(1)　授業時数を生み出す研究実践

- 15分の短時間学習の活用
- 15分＋45分の60分授業の試行と分析
- 週単位時間の増加（月の6）
- 土曜授業を含めた年間指導計画の見直しによる時数確保

(2)　複式学級における研究実践

- 「学年別指導」と，AB年度による「同単元指導」を基本とした指導計画作成と試行
- 15分の短時間学習の実施とよりよい運用の模索
- ALT・地域人材やICTの活用，小・中学校との連携等による複式指導の課題解決

2　調査研究の概要

(3)　調査研究校について

① 南さつま市立万世小学校（7学級）
② 鹿屋市立鹿屋小学校（19学級）
③ 鹿屋市立東原小学校（8学級）

- 単式学級のみ
- 主に時数の取り方とその運用に関する調査研究

④ 南さつま市立小湊小学校（4学級）
⑤ 肝付町立宮富小学校（4学級）

- 複式学級
- 主に複式学級における指導の在り方について調査研究

3　調査研究の内容

(1)　授業時数を生み出す研究実践

※　どの学校も，土曜授業を含めた教育課程全体の見直しを行った上で，15分の短時間学習の活用及び週単位時間数の増加等の工夫により時数を確保

※　第3･4学年の外国語活動については，全て45分授業で35コマを確保

※　第5･6学年の外国語については，短時間学習と週単位時間数増加等の複数を組み合わせて＋35コマを確保

以下に各学校の事例を示す。

3　調査研究の内容

(1)　授業時数を生み出す研究実践

事例1【南さつま市立万世小学校】

- ５・６年生は朝の活動の時間（チャレンジタイム： 国語や算数の補充学習）を活用して15分の短時間学習（モジュール学習）を実施
- 原則火・木の週に２回
- 年間で30回行うことで，10コマを確保

既存の外国語活動の時数	35 時間
学校行事の精選	10 時間
予備時数から	15 時間
モジュール学習（15 分×30 回）	10 時間
計	70 時間

低・中学年（従来通り）		５・６年（平成 30 年度から）	
8:15～ 8:20	出席確認・健康観察	8:15～ 8:20	出席確認・健康観察
8:20～ 8:30	朝読書（職朝等）	8:20～ 8:30	朝読書（職朝等）
8:30～ 8:40	チャレンジタイム	8:30～ 8:45	モジュール学習
8:40～ 8:50	朝の会	8:45～ 8:50	朝の会
8:50～ 9:35	１校時	8:50～ 9:35	１校時

3　調査研究の内容

(1)　授業時数を生み出す研究実践

事例2【南さつま市立小湊小学校】

- これまで職員会議・職員研修の時間としていた月の６に授業を実施
- 月曜は朝と業間の活動，掃除の時間をカットし，従来通りの時間に職員会議・職員研修を実施
- 2校時と3校時の間に実施している業間の時間に12回(4コマ分)のモジュール学習を実施

既存の外国語活動の時数	３５時間
月曜日６校時の新設	３１時間
モジュール学習（15 分×12 回）	４時間
計	７０時間

３　調査研究の内容

(1) 授業時数を生み出す研究実践

事例３【鹿屋市立鹿屋小学校・東原小学校】

【第３・４学年】

- 週２回，国語科で15分の短時間学習実施により，週１コマ45分の授業

【第５・６学年】

- 朝の活動の時間に，15分の短時間学習を実施し，10コマを確保
- 原則週２回，水・金に実施

		低学年	中学年	高学年
外国語（中:35 高:70）		20	35	70
内訳	外国語活動			35
	総合的な学習の時間			
	モジュール			10
	予備時数	20	35	25
総合的な学習の時間(70)			70	70

３　調査研究の内容

(1) 授業時数を生み出す研究実践

事例３【鹿屋市立鹿屋小学校・東原小学校】

15分＋45分の60分授業

- 朝の15分短時間学習に続けて１校時の授業を試験的に数回実施

＜課題＞

・「児童の集中力が続かない。」などの意見があり，発表の場やＡＬＴや他学級等との交流活動など，60分授業が有効活用できる学習内容について精査していく必要がある。

３　調査研究の内容

(1) 授業時数を生み出す研究実践

15分短時間学習実施の成果と課題

成果

○　英語に触れる機会が増えたことにより，自信をもって英語を使うようになった。

○　英語での活動が楽しいと答えたり，授業外でも英語でやりとりを試みたりする児童の姿が見られるようになった。

○　文字への抵抗感が少なくなり，定着が図られてきた。

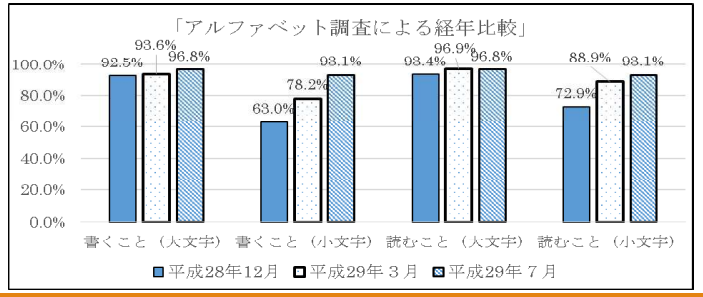
３　調査研究の内容

(1) 授業時数を生み出す研究実践

15分短時間学習実施の成果と課題

成果

鹿屋小学6年生調査より



３　調査研究の内容

(1) 授業時数を生み出す研究実践

15分短時間学習実施の成果と課題

課題

- 短時間で児童を集中させ，目標を達成するための活動を工夫し，単元の指導の流れに組み込むことが必要
- 15分の短時間学習でできる内容については，活動内容が限定されるので，45分授業との関連付けながら，順序よく運用していくことが困難

３　調査研究の内容

(1) 授業時数を生み出す研究実践

15分短時間学習実施の成果と課題

課題解決のために

※　45分の外国語授業枠を週2回位置付ける。短時間学習を週3回（朝2回5校時前1回）位置付け，担任は授業の進捗状況等の実態に応じて，国語，算数，外国語を選択して実施できるようにする。

	月	火	水	木	金
朝活動	読書	国・算・外		国・算・外	読書
1					
2					国・算・外
3					
4					
短時間			国・算・外		
5			外国語		
6					

３　調査研究の内容

(2)　複式学級における研究実践

※　複式学級を有する調査研究校2校において，次の二つの方向性から調査研究を実施

①　1，2年生担任等の協力による単式指導を基本とし，2学年が合同で活動できる複式指導も取り入れた指導計画の作成

②　A･B年度方式の複式指導を基本とし，学年毎の目標が設定された繰り返し単元も位置付けられた指導計画の作成

３　調査研究の内容

(2)　複式学級における研究実践

①　単式指導を基本とした指導計画（小湊小学校）

○　3･4年生の外国語活動，5･6年生の外国語ともに，1，2年生下校後の月曜の6校時に設定

3･4年生	5･6年生
3･4年担任 ＋ 1年担任	5･6年担任 ＋ 2年担任

3　調査研究の内容

(2)　複式学級における研究実践

課題

- それぞれが2人～6人の極少人数であるため，コミュニケーションに限界
- 部分的に，2学年が合同で活動する場の工夫が必要

5年生	【合同で】 ※　Want to～を使ったゲーム ※　観戦計画やおすすめの国紹介の発表	6年生
I want to go to Italy.		What do you want to watch?

3　調査研究の内容

(2)　複式学級における研究実践

解決のために

○　前の例に示したような，合同で行える15分の活動を模索中

○　15分と組み合わせた60分授業を設定し，練習→発表→感想・評価などの流れで行う授業に当てることを検討

○　5・6年生の短時間学習は，基本的には5年生に合わせた活動を設定

3　調査研究の内容

(2)　複式学級における研究実践

②　複式指導を基本とした指導計画（宮富小学校）

○　A・B年度方式の複式指導を基本

○　1年間の学習の流れに考慮し，2年連続で扱う繰り返し単元も設定

○　繰り返し単元には，学年毎の目標や，児童一人一人に合わせた目標を設定するなどの工夫

3　調査研究の内容

(2)　複式学級における研究実践

偶数年度（H30）	奇数年度（H31）
<This is me. 自己紹介> ○ 自分の名前や好きなものを紹介 ◎ 欲しいものを加えて聞き手に配慮しながら紹介	
<When is your birthday? > 行事・誕生日	<Welcome to Japan> 日本へようこそ
<I want to go to Italy. > 行ってみたい国	<What time do you get up?> 1日の生活
<I like my town. 自分たちの町・地域> ○ 絵や写真を使って地域の紹介 ◎ 文字も加えたマップを作って地域自慢	

３　調査研究の内容

(2)　複式学級における研究実践

○　５･６年生の短時間学習は，学期末の７月，１２月に集中的に位置付けて，学んだことを生かした自由度のあるコミュニケーション活動や，話したことを文字で書いてみる（写す）活動など，補充的な学習を実施

○　年間を通して計画に沿って実施し，その時の担当教員の感想･意見，児童の様子などを記録し，年度末に見直しを図る予定

３　調査研究の成果と課題＜全体を通して＞

成　果

○　外国語の授業を生み出すための取組を通して，各学校における児童の実態の捉え直し，教育課程全般の見直しがよく図られていた。

○　教員の協力体制，結束力がより高まっている様子が伺える。

○　児童が自信をもち，楽しんで英語を使う姿が多く報告された。

３　調査研究の成果と課題＜全体を通して＞

課　題

●　研究内容の効果を図るための検証記録を取り，改善を図っていく必要がある。

●　複式学級における指導は，個の成長に即した指導に努め，コミュニケーションを豊かにするための方法（人材やICTの活用等）を模索する必要がある。

●　教員の研修の充実を図るとともに，持続可能なよりよい方法の研究に努める。

●　県下へ，研究成果の普及に努める。

御清聴ありがとうございました